

仙台大学 広報室

Monthly Report

大和町健康づくり事業連携協力に関する 協定調印式



協定書を手にする朴澤学長(前列左)と浅野町長=大和町役場

仙台大学は8月7日(木)、大和町役場で「大和町健康づくり事業連携協力」に関する協定書を締結しました。調印式には、本学から朴澤泰治学長・阿部芳吉副学長・仲野隆士体育学科長・藤井久雄運動栄養学科長ら6名が、大和町から浅野元町長・遠藤幸則副町長・上野忠弘教育長らの6名が同席し、朴澤学長と浅野町長が協定書を取り交わしました。

事業内容は、①大和町民の健康増進に関すること、②生涯学習に関すること、③その他双方が必要と認める事業。今後双方で事業内容を掘り下げながら、話し合いを進めていきます。

調印式で浅野町長は「少子高齢化が進展していく中で、健康に対する意識啓発を進め、元気な高齢者と子ども達の肥満解消を目指していきたい。そのためにも、仙台大学のもつ人材や専門知識・技術をお借りしたい」と述べられ、朴澤学長は「町民の健康づくりは、大切な政策の一つであると考えられる。本学は身体活動をベースに様々な分野への人材の育成という理念で教育活動を行っている。学生の実践教育の場としても是非取り組ませて頂きたい」と話しました。

なお、本学における「地域連携協力」に関する協定書の締結は、宮城県・仙台市・柴田町等に続いて10件目となります。

< 目 次 >

大和町健康づくり事業連携協力に関する協定調印式	1
アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校より初来訪	2
「韓国伝統武道」及び「中国武術」集中講義	3
平成25年学校法人朴沢学園事務職員研修会	4
本多弘子仙台大学名誉教授の「叙勲受章祝賀会」	5
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校より初来訪



本学と国際交流関係にあるアメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校（以下、CSULB）の学生7名と引率職員1名の計8名が7月28日～8月10日の日程で本学を訪れ、短期留学プログラムが実施されました。

期間中は、太田四郎教授の10回に亘る日本語教室や、茶道などの日本文化体験、ベガルタ仙台や楽天イーグルスのプロスポーツを通じた日米の比較など、今回のプログラムを中心的にサポートされたマーティ・キーナート副学長をはじめ、多くの先生方にご尽力いただき内容の濃い講義や実習プログラムが実施されました。

また、8月1日～4日にはCSULBのMiller保健福祉学部長とButler保健福祉部CEOも本学を訪問され、今回のプログラムの内容や本学のホスピタリティーに大変感激されていました。

参加した学生からも「本当に素晴らしいプログラムで、貴重な経験になった。」との声が聞かれ、大変充実した留学を体験できたようでした。

一行は8月10日の早朝に船岡を出発し、東京都内を見学された後帰国の途に就きました。

CSULBとは2009年に協定を締結以来毎年本学の学生が同校を訪問していますが、今年2月の訪問の際にかねてより企画していたCSULBからの本学への短期留学を説明し、実現に至ったものです。今後、両校の交流が更に深まることが期待されます。

<報告：事業戦略室 石森靖明>

公益財団法人 大和証券福祉財団から「仙台大学東日本大震災災害ボランティア派遣組織健康づくり運動サポートグループ」に活動助成費50万円が授与



8月1日(木)仙台市内の大和証券仙台支店において東日本大震災の被災地でボランティアを行う団体に対しての活動助成費贈呈式が開催され、本学を代表し大山さく子学生支援センター長に贈呈書と目録が手渡されました。

この助成は、震災ボランティア助成として東日本大震災発生年に新設され3年目の事業で、今年度は全国152件の応募の中から審査を経て37団体に対して助成金が授与されました。全国のなかで被災県である宮城県内の支援団体の採択が最も多く、本学を含め15団体が採択を受けました。県内の大学としては仙台大学のほかに東北大学、東北福祉大学、東北工業大学の研究室や学生支援グループ等が採択を受けた他にNPO法人をはじめ規模も活動内容も様々な

支援団体に対し助成金が授与されました。

贈呈式に先立ち、大和証券福祉財団本部の石河事務局長から「これからの日本を担う多くの学生の活動に助成していきたい。若い世代にも復興活動に関わってほしい。という願いが込められています。活動の足となる交通費にも使っていただける助成金です。それぞれの団体の活動に少しでも役立てていただければありがたい」との挨拶がありました。

贈呈式終了後には、授与された団体の活動紹介がなされ、活動を通じて被災地の方々の笑顔や立ち直っていく姿が活動の原動力となっていることや、活動を継続していく困難や苦悩を抱えながら被災された方々と寄り添い、懸命に活動している話を伺うことが出来ました。「東日本大震災からの復興」という共通項の同志として、互いの活動について理解し励まし合う有意義な時間となりました。

本学ではこの助成金を仮設住宅で継続実施している、廃用症候群予防を目的とした運動指導やコミュニティ再構築のための茶話会の材料費や交通費に充て、より有意義な活動となるよう役立てていく予定です。

(H25年度 第3回災害時ボランティア活動助成一覧：
<http://www.daiwa-grp.jp/dsf/results/20a.html>)

韓国伝統武道 集中講義



8月8日(木)～11日(日)の4日間に渡り韓国伝統武道(テコンドー)の集中講義が行われました。この授業では、4日間で、プムセ(型)の太極(テグ)第1章～第4章までをマスターすることが目標です。

今回お招きした講師は本学と国際交流協定を締結している国立韓国体育大学の張権教授で二度目の来学です。張先生は、韓国のテコンドー界で、知らない人はいないと言われている先生で、テコンドー普及のため世界各国を訪問し、テコンドーを初めて学ぶ方から、一流選手の指導まで幅広い指導歴をお持ちです。講義中は、厳しく時にはユーモアを交えながら教えて頂きましたが、学生達のあまりの上達の早さにお褒めの言葉を頂く程でした。また、今年度より全員テコンドー衣を着用しての実技指導となり、より一層引き締まった空気の中での授業となりましたが、最終試験が終了した後は、一転して和やかな雰囲気となり、張先生も学生達との写真撮影に気さくに応じて下さいました。そして、全力出し切りすがすがしい表情の学生を前に「来る度に仙台大学が好きになっていく」というメッセージを残され4日間にわたる集中講義が終了いたしました。

<報告：現代武道学科事務担当 中鉢芳尚>

中国武術Ⅰ・中国武術Ⅱ 集中講義



8月20日(火)～23日(金)までの間、中国武術Ⅰならびに中国武術Ⅱの集中講義が行われました。中国武術Ⅰでは4日間で太極拳の24式をマスターすること、中国武術Ⅱでは長拳の基本動作と三路長拳を修得することが最大の目標です。

今回お招きした講師は、本学と国際交流協定を締結している瀋陽師範大学の李鉄講師(中国武術Ⅰ担当=写真上)と王強講師(中国武術Ⅱ担当=写真下)のお二人です。李先生と王先生は武術専攻の教員で、太極拳等の各種大会で、優秀な成績を修めこの分野の第一人者と言われています。

まず、集中講義初日では、中国武術Ⅰ(2年生)と中国武術Ⅱ(3年生)の履修者を一同に集め、合同でオリエンテーションを実施いたしました。そこでは、貴重な画像・映像をご提示頂き、太極拳・長拳の基礎的動作の理解促進に加え、代表的な技について解説頂きました。その後、場所を剣道場に移し、両先生のデモンストレーションが披露され、実技指導に移りました。実技指導では、剣道場を半分に分け、それぞれ行われましたが、太極拳の方は静のイメージであるのに対し、長拳の方は、激しい動きが加わり、全く対照的な授業が展開されました。また、3年生については、昨年に中国武術Ⅰの授業を受講した者がほとんどで、さすがに切れのいい動きを見せていました。

<報告：現代武道学科事務担当 中鉢芳尚>

平成25年学校法人朴沢学園「事務職員研修会」



緑水亭の若女将・高橋知子氏

8月8日(木)～9日(金)の1泊2日、秋保温泉・緑水亭(仙台市太白区)で平成25年学校法人朴沢学園「事務職員研修会」が開催され、法人事務局12名・明成高校13名・仙台大学71名の計96名の理事及び事務職員が参加しました。

朴澤理事長より、研修会の冒頭に、公益財団法人日本高等教育評価機構が実施する「大学機関別認証評価」を仙台大学が本年度受審するにあたり、万全の体制を整えてほしい旨が述べられました。

次に、緑水亭の若女将である高橋知子氏からの講演会(「ありがとう」のおもてなしの心)では、震災時の旅館の様子や接客業の難しさ、復興に向けての取り組み等を力強くお話し頂きました。講演内容について活発な質疑応答が行われ、非常に有意義な講演会となり、研修初日を終わりました。

翌日には、仙台大学の若井彌一副学長から「仙台大学の一層の発展を目指して～振り返りと今後の取り組み～」と題する講話があり、「大学のすべての構成員が自覚してそれぞれの本務遂行に努めてほしい」と話されました。

今回の二日間の研修は、自分磨き、視野を広げ新たな気持ちで仕事に取り組むことに繋がったのではないのでしょうか。

心が変われば態度が変わる
 態度が変われば行動が変わる
 行動が変われば習慣が変わる
 習慣が変われば人格が変わる
 人格が変われば運命が変わる
 運命が変われば人生が変わる

仙台大学大学院2年の安部浩太朗さんが中国・上海体育大学大学院を修了—ダブルディグリーの取得を申請



朴澤学長と安部浩太朗さん(右)=学長室

平成21年9月～中国の国費留学生として上海体育大学大学院運動科学学院運動人体学科で学んでいた仙台大学大学院2年の安部浩太朗さん(平成21年体育学科卒—静岡・藤枝明誠高校出)が同大学院の修士課程を修了し、8月22日(木)、朴澤学長に同大学院の修了報告後、本学大学院でダブルディグリー取得(仙台大学大学院と上海体育大学大学院の両方の学位を取得)のための申請を行いました。

本学では過去に、中国・東北師範大学大学院1名、上海体育大学大学院1名がダブルディグリーを取得しており、単位取得に関する手続きが終われば、本学で3人目のダブルディグリー取得者が誕生します。

上海体育大学大学院から教育学修士を授与された安部さんは「『百聞は一見にしかず。』という故事があるように、留学を通して本当に貴重な経験をさせて頂き、様々なものの見方や考え方を身に付けることができた」と話し、「上海市にある日本のベンチャー企業(スポーツクラブ)への就職が決まった。後輩たちにも積極的に留学して、自分の可能性をどんどん広げていってほしい」とエールを送りました。

なお、平成25年9月より、菊地貴志さん(仙台大学大学院1年—平成24年体育学科卒—宮城・利府高校出)がダブルディグリー取得を目指し、中国の国費留学生として上海体育大学大学院に留学する予定です。

本多弘子仙台大学名誉教授の「叙勲受章祝賀会」



挨拶の言葉を述べられる本多先生



本多先生と仙台大学旧・現教職員

8月31日（土）にホテル白萩（仙台市青葉区）で、本多弘子名誉教授の「叙勲受章祝賀会」（宮城県レクリエーション協会主催）が開催されました。

本多先生は、長年に亘りスポーツ・レクリエーション振興功労に尽力されたご功績により、平成25年春の叙勲で「旭日双光章」の栄誉を受けました。

祝賀会には、宮城県レクリエーション協会の関係者及びスペシャルオリンピックスの関係者の他、本学からは、朴澤学長はじめ若井副学長、松井・佐藤佑・阿部武彦の各名誉教授、仙台大学レクリエーション研究部・本多ゼミの卒業生ら約150名が参加しました。

本多先生は、ご挨拶の際に「これまでの私の活動経験を考えると、この受章は、いつもご指導ご鞭撻ご支援を賜った多くの仲間の皆様とともに頂いた“章”であるということは明らかであり、改めて心から感謝申し上げたい」と言葉を噛み締めながら話されました。

祝賀会では、発起人の一人である仲野隆士体育学科長が「あの素晴らしい愛をもう一度」・「つばさをください」を歌いながらギター演奏すると、参加者の方々も一緒に歌い始めるなど、盛会となりました。

最後に、仙台大学レクリエーション研究部の礎を築いた紋谷洋三氏（岩切中学校教頭－S61年体育学科卒）が万歳三唱を行い、参加者全員による「人間アーチ」を作って、本多先生をお見送りしました。

本多先生のご健勝と今後益々のご活躍を心よりご祈念申し上げます。

イタリアスポーツ教育協会 (AISE) で柔道研修として合宿に参加 ～親日柔道家バリオーリ氏の遺志を継ぎ今年も被災地の柔道支援のために～



やくしじんももこ

7月17日～8月1日の期間、本学柔道部の薬師神桃子さん（現代武道学科3年一岩手・宮古高校出身）が3度目となるイタリア柔道合宿に参加しました。

この研修は、イタリアスポーツ教育協会（AISE）の創設者チェザーレ・バリオーリ氏が東日本大震災で被災したこれからを担う若い世代の柔道家をイタリアへ招待したいと女子柔道オリンピック金メダリストの谷本歩実さんを通じ打診があったことにあります。

被災地唯一の体育大学であること、そしてかねてから谷本さんと交流があった本学柔道部の南條和恵女子監督に声がかかったご縁で参加させていただくことになり、震災の年から毎年この時期に招かれ今年で3年目となります。高齢であったバリオーリ氏は、昨年の研修直前に亡くなりました。イタリアの経済状況も不安定な状況下で支援を続けてくださることへの困難もあったようですが、氏の遺志を受け継ぐ形で奥様のイヴァーナさんやお弟子さんたちが中心となり、今年も引き続き招待することを決断して下さったそうです。

合宿に参加しているのは、イタリア各地にあるAISEの道場へ通う、薬師神さんと同世代の10代から20代の男女約20名で、大学で数学を教えている先生や美術大学の学生など専攻も様々。柔道の父、嘉納治五郎の目指した「自他共栄」の精神をAISEの教育の理念としていることから、同じ期間中モロッコの孤児や病気を経験した子ども達も合宿に招き、柔道を通じ心身の成長を手助けする活動もあわせて行っていたそうです。

7月21日～23日の3日間には、女子柔道63kg級オリンピック2連覇の谷本歩実さんと、妹で2010年講道館杯63kg級優勝の谷本育実さん（いずれも所属コマツ）による柔道講習会が開かれました。お二人からの指導を聞き逃すまい、見逃すまいと必死に稽古に取り組む姿勢に薬師神さんもとても感銘を受け、彼らの学ぶ姿勢から柔道への深い愛情を感じることができたそうです。夕食後に開かれたミーティングでは「日本とイタリアの柔道について」話し合う場が持たれ、イタリア人から谷本さんらに沢山の質問が投げかけられたそうです。その中で「試合中は何を考えていますか？」との問いに谷本さんは「無心であること」。「積み重ねた練習で体は自然と動くので、相手に集中しています」と話され、亡きバリオーリ氏も生前、「無心である

こと」の重要性を、門下生へ教え続けていたことから普遍的な教えであることとして門下生それぞれが再認識させられたとのことでした。AISEでは心身の鍛錬を行うための生涯スポーツとして柔道が位置づけられているため、薬師神さんへ「どうして、大学卒業すると多くの日本人が柔道をやめてしまうの？」と同世代の学生から率直な質問があったそうで、勝つことを目指しある程度まで行くと、一線を離れてしまうこともある日本の柔道において、勝つための柔道だけではない本来の意味についても、改めてしっかり勉強しなければと、薬師神さん自身が考えさせられる場面であったようです。

谷本さん姉妹が帰った後には、薬師神さんの柔道指導の場が設けられ、イタリア語と身振り手振りのジェスチャーを交えた指導を行い、薬師神さんからも沢山のことを学び取ろうとトレーニング一つも手を抜かず取り組む姿勢に新鮮な喜びを感じたそうです。

また研修期間中には、産経新聞の全国版「今日のひと」として掲載され、イタリア柔道研修のことも紹介されました。日本全国の方々にイタリアからの柔道を通じた被災地支援について知っていただけただけのこと、また掲載日が研修中であったことから、研修に携わってくださった現地の日本人をはじめ、イタリアのAISEの関係者へリアルタイムで紹介することが出来、とても喜んでくださったことが何より嬉しかったと薬師神さんは話してくれました。

震災では薬師神さんの両親が経営していた飲食店の店舗が津波で流失しました。家族全員が無事であったものの、住み慣れた土地を離れ現在家族は愛媛県に移住しています。

両親もこれまでの支援にとっても感謝しており、薬師神さん自身が今後イタリアでの就職を考えていることについても、理解を示してくれているそうです。

これまでの3回の柔道研修を通じ、沢山の方々との交流をしてきたことを活かし、今後は語学の習得に努め、イタリアで柔道指導することを目標に、しっかり大学生活を送りたい。そして部活動においても確かな結果を残し、AISEの皆さんに恩返しをしたい。と笑顔で話してくれました。



ビッラサルタ合宿所の柔道場には嘉納治五郎の肖像画が



谷本さんからの指導を、絵で記録する美大生

男子サッカー部、天皇杯サッカー宮城県予選 代表決定戦に2年連続進出



前半、DF菅井主将がループシュートを決め、2-0とする

8月4日（日）、仙台大学サッカー・ラグビー場で「天皇杯全日本サッカー選手権 宮城県予選」の準決勝が行われ、仙台大学男子サッカー部は東北社会人リーグ1部の強豪コバルトレ女川と対戦しました。

前半の立ち上がりは、相手に主導権を握られましたが、前線からのプレスで支配率を高め、徐々に仙台大学のペースを取り戻しました。前半15分過ぎ、右サイドからのクロスみねざしひかるをMF嶺岸光(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)が胸トラップで相手DFをかわし、左足でシュート。

これが決まって、欲しかった先制点を挙げました。前半20分過ぎには、MF熊谷達也くまがいたつや(体育学科3年-柏レイソルユース出)が相手DFの裏へ絶妙なループパスを送り、これに反応したDFすがいたくや菅井拓也主将(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)が相手GKと1対1となりますが、冷静にループシュートを決め、2-0。前半は、仙台大学が攻守にわたって試合をコントロールし、2-0で折り返しました。後半に入っても試合は仙台大学のペース。後半10分過ぎ、左サイドをドリブルで突破したMF嶺岸が右足のシュートをファーサイドに決め、3-0。しかし、後半30分過ぎに、立て続けに失点し、1点差に追い上げられました。厳しい展開となりましたが、後半すがいしんや35分過ぎ、後半途中出場のDF菅井慎也(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)が右サイドからのクロスを頭で流し込み、仙台大学がコバルトレ女川に4-2で勝利し、見事同予選代表決定戦に2年連続の進出を決めました。

男子サッカー部—総理大臣杯優勝校の「流通経済大学」に惜敗



前半30分、MF嶺岸(14)が右足でゴールに流し込み、同点ゴールを奪った

8月11日（日）、猛暑の中、キンチョウスタジアム(大阪市)で「第37回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」の2回戦が行われ、仙台大学男子サッカー部は関東の強豪「流通経済大学」と対戦しました。

前半立ち上がりは、厳しい暑さと緊張からなかなか良い形が作れなかった仙台大学。逆に相手は、前線からプレッシャーをかけて仙台大学ゴールに近い位置でボールを奪い、積極的にシュートを打ってきました。前半21分に先制点を奪われましたが、仙台大学は前半30分、DFとりやまよしゆき鳥山祥之(体育学科3年-柏レイソルユース出)からのクロスすがいたくやをDF菅井拓也主将(体育学科4年-宮城・聖和学園高校

みねざしひかる出)が落とし、それをMF嶺岸光(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)が流し込んで1-1の同点に追いつきました。その後は、中條渡なかじょうわたる(体育学科3年-宮城・東北高校出)・乾智貴いぬいともしき(体育学科3年-群馬・桐生第一高校出)らDF陣の体を張ったディフェンスやGK上田築うえだきずく(体育学科1年-北海道・帯広北高校出)のファインセーブでピンチを凌ぎました。しかし、前半終了間際の43分に1点を奪われ、1-2で前半を折り返しました。

後半、菅井慎也すがいしんや(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)と西谷優希にしやゆうき(体育学科2年-茨城・鹿島学園高校出)を投入し、ボールが動かせるようになり、仙台大学に流れが傾きました。DF鳥山からのクロスにしむらこうじをFW西村光司(体育学科4年-ベガルタ仙台ユース出)が触れば1点という場面やDF鳥山が右サイドをドリブルで突破し、そのままシュートを放ち、クロスバーを叩くという良い形を作りました。しかし、1点が遠く、仙台大学らしい攻撃的なサッカーを展開しましたが、チャンスを決めきれず、1-2の惜敗という結果になりました。

陸上競技部の加藤由希子が「2013IPC陸上競技世界選手権大会」で銅メダル獲得



銅メダルを手に笑顔を見せる加藤

7月16日（火）～28日（日）にフランス・リヨンで開催された「2013年IPC陸上競技世界選手権大会」女子やり投げの日本代表として出場した本学陸上競技部のかとうゆきこ（健康福祉学科2年一宮城・気仙沼女子高校出）が銅メダルを獲得しました。

左手が義手のアスリート、障害者女子やり投げの日本記録(32m83cm)を持つ加藤は「今大会には、日本選手団35名が参加し、10個のメダルを獲得するという好成績を収めた。初めての国際大会で3位(銅メダル)という成績を得ることができ、正直嬉しい」と充実した表情で話し、「次は、9月7日～8日に山口県で開催されるジャパンパラリンピックに出場する予定。応援して下さい方々への感謝の気持ちを忘れず、精一杯頑張りたい」と今後の抱負を語りました。

陸上競技部の佐々木琢磨が「第22回夏季デフリンピック競技大会ソフィア2013」に参加



200mのスタートをする佐々木(左端)

ささきたくま

本学陸上競技部の佐々木琢磨（健康福祉学科2年一岩手聴覚支援学校出）が、8月1日にブルガリア・ソフィアで行われた「第22回夏季デフリンピック競技大会ソフィア2013」陸上競技男子200mに出場しましたが、惜しくも2次予選敗退という結果となりました。

今回初めて国際大会に出場しました。大会前に4回も左ハムストリングの肉離れを起こしたため、十分な練習もできないままの参加となりました。結果は、目標としていた200m走入賞は果たせなかったものの、なんとか異国の地で走り切れたことに満足しています。

また、当初、4×100mリレーへのエントリーを予定していましたが、脚の状態が十分でないため出場できませんでした。メダルが狙えると期待を受けていたため、今回の結果は納得いくものではありません。

しかしながら、様々な経験ができました。今までよりも、さらに速く、デフワールドでナンバーワンになりたいという気持ちが強くなりました。これから、全国ろうあ大会、インカレなど様々な大会が続きます。怪我のないよう、悔いのないよう、努力をしていきたいと考えておりますので、今後とも、関係者の皆様のご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

健康福祉学科2年 佐々木琢磨

男子サッカー部、8大会ぶりの天皇杯出場に一步及ばず

8月25日（日）、宮城県サッカー場Aで「第17回宮城県サッカー選手権決勝 天皇杯サッカー宮城県代表決定戦」が行われ、本学男子サッカー部は「JFL・ソニー仙台FC」と対戦。惜しくも0-1で敗れ、8大会ぶりの天皇杯出場に一步及びませんでした。

仙台大学男子サッカー部を応援して下さいの皆様、本当に有難うございました。

引き続き、温かいご声援を宜しくお願い致します。

第40回全日本大学ボート選手権大会—女子舵手つきクオドルプル7位入賞



女子舵手つきクオドルプルで力漕する仙台大学漕艇部
＝戸田ボートコース

8月22日（木）～25日（日）にかけて戸田ボートコース（埼玉県）で行われた「第40回全日本大学ボート選手権大会」の女子舵手つきクオドルプルに、仙台大学漕艇部（女子）が出場しました。仙台大学は準決勝に進出しましたが、惜しくも明治大学に敗れ、後に行われた順位決定戦では7位入賞という悔しい結果となりました。

今大会には、運動栄養サポート研究会漕艇部サポートグループの学生5名も帯同し、大会期間中の選手のコンディショニング、疲労軽減・回復のためにサンドウィッチやフルーツの補食、オリジナルドリンクの提供を行い、選手たちを「栄養」の面から支えました。

仙台大学漕艇部は男女共、10月10日（木）～13日（日）にかけて行われる「全日本ボート選手権大会」に出場します。チーム一丸となって練習に励む仙台大学漕艇部への熱い応援を宜しくお願い致します。